

ペンドルトンについて

(ウマティラインディアン居留区部族連合)

岡山市子供海外派遣団 3年 原 七穂

- ①ウマティラインディアン居留区部族連合って？
- ②ウマティラ部族の「衣・食・住」
- ③ウマティラ部族の悲しい歴史…

位置

オレゴン州最大の都市のポートランド市から東へ約三五〇キロメートル。
 ・人口 約三千人
 ・面積 約六九六平方キロメートル

*概要

先住民である、カイユース族、ウマティラ族、ワラワラ族からなるインディアナ居留区。多くはワシヤトと呼ばれる古代部族宗教を信仰している。現在も独自の言語を話し、学校などでは保存プログラムがある。

*交流の歩み

市民交流がきっかけ。一九九三年以来数回に渡り来岡。伝統音楽や踊りを披露したり、訪問団が同居留区を訪問したりする交流が行われてきた。二〇〇五年七月に「友好のための同意書」が交わされたからは、両国の子供がホームステイし、互いの文化を紹介しあうなど文化面・教育面での交流を深めている。

①

ウマティラ部族の「衣・食・住」

「衣」

写真に写っているのはウマティラ部族の伝統衣装である。普段は普通の洋服を着ている。伝統衣装は動物の皮でできていたため、私の感覚では大変重かった。人によっては羽がついていたり冠をかぶっていたり小道具を持っていたりと様々な模様があり、色も様々でカラフルであった。



②

春
夏
秋
冬



「食」

部族の名産品はハックルベリーという果実で、甘酸っぱくブルーベリーのような果実である。ベリーの香りが強くジャム、紅茶、キャンディーのほか、石けんにも使用されていた。私は紅茶とキャンディーを試食したが、どちらもベリーの強い香りとほんのりとした甘みがとてもおいしかった。

昔の部族の食べ物：

春↓作物を収穫して食べる。

夏↓魚貝類を捕獲して食べる。

秋↓狩猟などで動物を捕獲して食べる。

冬↓ほかの季節に取得し保存しておいた食べ物を食べる。

：だったそう。季節にあった生活をしていた、無駄のない生活をしていて、現代の私たちも見習うべきところがあると感じた。

ハックルベリー



「住」

写真に写っているのは伝統的な住居である、ティピー（teepee）。中に入ると上を見上げると、とても高く、案外広い。床は、コンクリートの床のキャンプ場と、そのまま地面のキャンプ場と二通りあった。現在は普通の家に住んでいるようだが、いろいろな所に、ウマやネイティブアメリカンの写真や絵が飾ってあった。リビングのようなどころが二つあったが、アメリカは応接間がある家も多いようだった。シャワールームが浴室とは別にマスターベッドルームにもついている家も少なくないようだった。

ウマティラ部族の悲しい歴史

現在でも独自の文化や言語が残るウマティラ部族だが、その歴史はとても悲しいものだった。昔はたくさんの土地を持ち、近くの川や海にはたくさんの魚がいたが、白人や政府にどんどん土地を奪われ、川にも水力発電のダムが造られ、魚が大幅に減ってしまった。部族の人はカシノの経営などの利益で風力発電装置の設置や土地を買い戻すなどの活動、魚を増やす取り組みなどを行っているそうだ。

③